

自然とともに、仲間とともに生きるふるさとを。

広大な牧草地が広がる浜中町。冷涼な気候を生かして酪農が営まれています。根釧地区は全国屈指の酪農地帯です。



純白のタンチョウが湿原に舞い、淡水魚イトウが悠然と川に泳ぎ、海を越えてオオワシやオジロワシがやってくる。

北海道浜中町、別海町を流れる風連川の流域や沿岸には豊かな自然環境が残されています。流域の全ての住民が誇るべき財産、次の世代に残すべき財産です。

産業も自然の恵みがあってこそ。良質の生乳をつくる酪農業も、海の幸を食卓に届ける水産業も環境を守りながら地域社会を支えることが重要。地域を守る力ぎは自然と産業の共生です。

えんの森は風連川流域の酪農家を中心に設立したNPO法人です。環境と産業を調和させ、地域社会を元気にしようと、さまざまな活動を展開します。

人を結び、自然の環（わ）を再生し、地域を元気に。それが、えんの森の活動です。

浜中町と別海町の境界を流れる風連川支流の三郎川の取水堰に2008年、酪農家を中心とする住民が手作りした簡易魚道。地域の環境保全活動のシンボルです。



■ 森を育て「緑の回廊」や魚道をつくる

風連川流域に木を植えて育て、川には魚道を造ります。河畔の森は土砂などが川に流れ込むのを防ぎ、生き物が行き来する「緑の回廊」になります。

■ 自然の「いま」を調べ、環境を守る

地域の自然環境について調べ、データをまとめて地図にします。それを環境保全やまちづくり、産業振興に活かす方法を提言し、推進します。

■ 人を結び、絆を深める

地元の人同士、そして地域の外から来た人たちが交流し、絆を深める場をつくります。子どもたちが、地域の環境や産業を学ぶ場を設けます。

■ 産業を元気にする

一次産業体験ツアー、物産展などを通じて環境を守る酪農家や漁業者の取り組みを広く知らせ、農水産品の付加価値を高めるよう努めます。

当面の事業展開スケジュール

カラフトマスが遡上する浜中町内の風連川支流



2012年4月までに進める事業

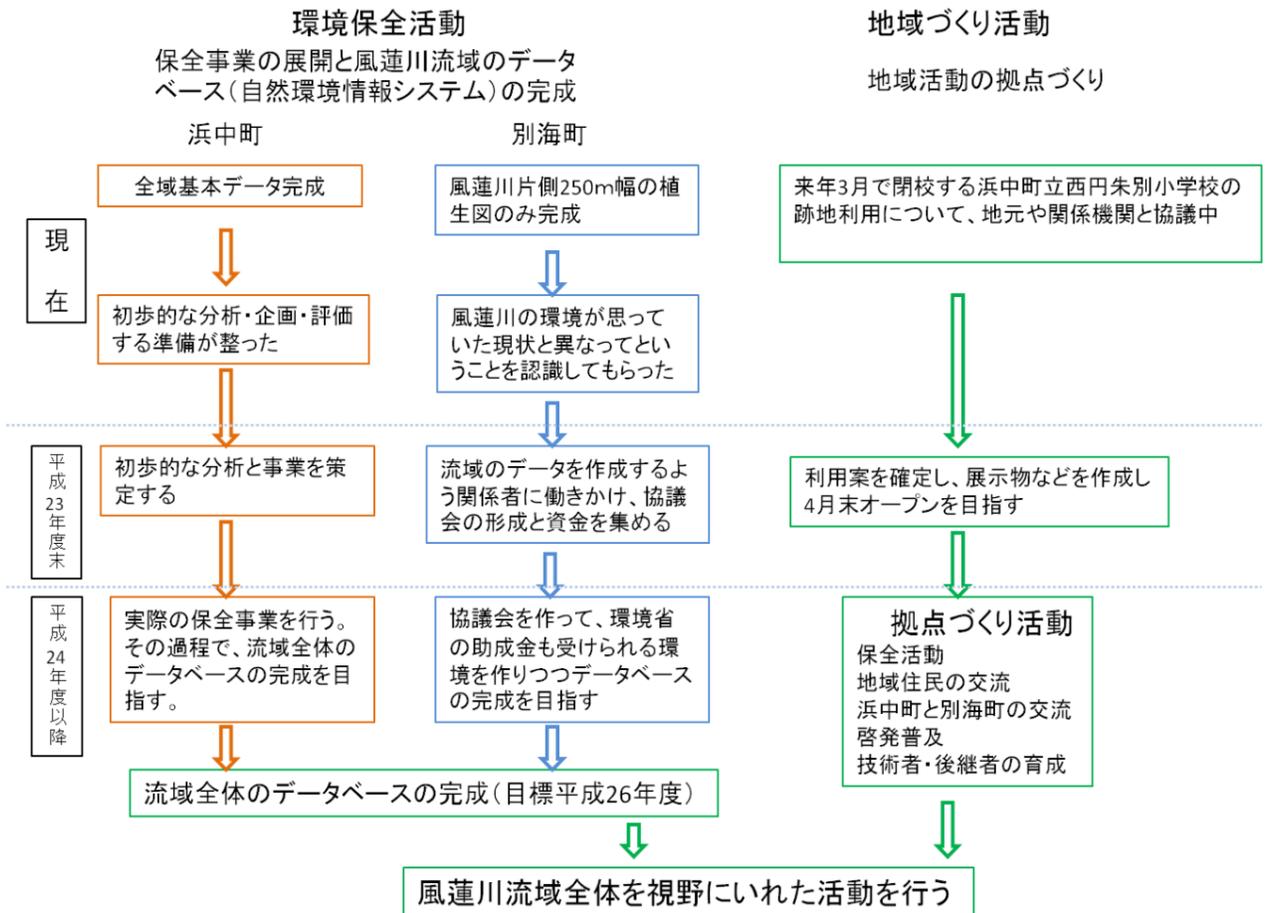
- ①自然環境データベースの作成（浜中町からの受託事業）：環境保全活動の基礎となる浜中町、別海町の自然環境データベースの整備を進めます。
- ②「緑の回廊」の計画づくり：自然環境データベースを基に、河畔林を再生して「緑の回廊」を形成するための植林のマスタープランを策定します。

③小学校跡地の活用計画づくり：来年3月で閉校となる浜中町西円朱別小学校の跡地活用策について、地域の住民とともに計画を練ります。

④河川環境の保全計画づくり：野生個体と思われるカラフトマスが遡上する浜中町内の風連川支流について、生息環境の保全策をまとめます

⑤会員の拡大：理念に賛同し、活動を支援する会員の拡大に取り組みます。

NPO法人えんの森 活動計画



三郎川魚道の設置作業では、酪農家、NPOや農協、役場の職員、地元の学校教員など、多くの人の「輪」ができました。風連川の上流、下流で人のつながりが生まれ、NPO法人えんの森の設立の原点となりました。えんの森は、こうした経験を踏まえて自然と人、人と人を結んでゆきます。

特定非営利活動法人えんの森 役員

理事長	二瓶 昭 (北海道浜中町)
副理事長	垣内 勇人 (同)
理事	小椋 守 (同)
理事	甲斐 沼淳一 (同)
理事	中川 大介 (北海道札幌市)
監事	鈴木 名敏男 (北海道浜中町)
事務局長	河原 淳 (北海道江別市)

設立時財産目録

＜資産の部＞	
流動資産合計	1,645,000円
固定資産合計	0円
＜負債の部＞	
流動負債合計	0円
固定負債合計	0円
正味財産	1,645,000円



あなたの力を貸してください。

NPO法人えんの森の活動は、会員の皆様のおかげで支えられています。ご支援、ご協力の輪を広げていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

- サポーター会員 年会費2,000円
- 団体会員 年会費1口10,000円（1口以上）
- 会費・寄付の口座

大地みらい信用金庫 浜中支店
普通1035531
特定非営利活動法人 えんの森
理事長 二瓶 昭（にへい・あきら）

JAバンク 浜中町農業協同組合本所
普通0014728
NPO法人えんの森 理事長 二瓶 昭



三郎川流域の環境保全へ向け2008年、浜中町の酪農家ら住民が河畔に苗木を植えました。海外から訪れたボランティア、地元の子たちも参加し、川の環境を良くしたいとの思いを込めて苗木に土をかぶせました。

★2011年11月1日現在、正会員（社員）16人、サポーター会員24人、団体会員3団体。皆様のご支援、ご協力に感謝します。

ホームページ開設準備中です。
もう少々お待ちください。

産業と環境の調和を目指して

NPO 法人
えんの森

環の中に生きる
鳥も、魚も、人も、牛も。

NPO法人えんの森の名前の由来とロゴマーク

「えん」は、「縁」に結ばれてできる人の「輪」、自然界でさまざまな物質が循環する「環（わ）」、私たちスタッフが魚道づくりなどの環境保全に取り組んできた浜中町西円朱別地区の「円」などを意味します。木を植え、森を育てるように、さまざまな「えん」を皆で大きな森に育てようという願いを込めました。

ロゴマークの背景には円をあしらい、酪農・漁業地帯の人とあらゆる生き物が循環の中で、つながりを保ちながら生きることができるように、との思いを表現したキャッチフレーズ「環の中に生きる 鳥も、魚も、人も、牛も」を掲げました。

NPO法人えんの森ニュースレター「えんの森通信」第1号（2011年11月発行）
En no mori News Letter No.1 November 2011

- 発行■ 特定非営利活動法人 えんの森
- 編集■ 中川 大介
- 特定非営利活動法人えんの森事務局
北海道厚岸郡浜中町茶内西15線111番地 二瓶牧場内
電話・ファクス：0153・65・2869 電子メール：enmori@least-shrew.jp

NPO法人えんの森

えんの森通信

En no mori News Letter No.1 November 2011



ごあいさつ



「NPO法人えんの森」は2011年9月26日、浜中町、別海町の酪農家を中心とする住民有志が結集して設立いたしました。

浜中、別海両町を流れる風蓮川水域の環境保全に取り組み、自然と調和した酪農郷を築くことが、「えんの森」の目的です。そうして生き物の豊かな環境を取り戻すことが、この地で生産される生乳の「安全・安心の証」になると考えます。また、「えんの森」は地域の魅力ある資源を発掘し、いろいろな楽しいイベントを企画して「住みたい、住み続けたい地域づくり」を進めるという大きな目標を持って活動して行きたいと考えています。

これまでの酪農は、豊かな生活を求めて規模拡大を進め、ゴールなき拡大を続けてきました。森が切り開かれて牧草地が広がり、根釧の大地を流れる川は自然の浄化装置としての機能が低下しました。結果として多くの動植物が姿を消し、自然の生態系が崩れたように感じます。一方で農村社会は農家戸数の減少や少子化の進行で学校の統廃合が進み、地域のコミュニケーションの場が失われてきました。

私たち浜中町と別海町の酪農家を中心とする住民は、このような状況の下で、さまざまな環境保全の活動や、地域活性化のためのイベント実施に取り組んできました。環境保全では、酪農家の仲間の理解と協力を得て、牧草地として開発したものの河畔の湿地などで牧草栽培に利用できない土地や、酪農経営に支障のない土地を提供してもらい、木を植えてきました。また風蓮川の支流にある堰堤に魚道を手作りして、希少な魚が自由に上流の産卵場所へ遡上できる環境を整えました。地域活性化では、牧草ロール転がし、農村景観の写真コンテスト、その写真をあしらったカレンダーの作成など、さまざまに活動してきました。

この経験を踏まえて感じたのは、河川の上流で酪農業や林業を営んでいる人と、下流で漁業を営んでいる人が協力して環境保全に取り組めば、お互いに「持続可能な経営」につなげることができるだろうということです。

こうした活動を下地として進める「えんの森」の事業は、活動範囲が広域に及び、成果が出るまでに20年、30年かかる息の長いものです。そのためには、しっかりと活動が展開できる安定した組織づくりが最も重要になってきます。幸い、私たちのスタッフには環境保全全般にわたる豊富な知識と経験、さらに人的ネットワークを持った人材がいます。多くの皆様のご協力をいただき、取り組みの結果をしっかりと検証しながら活動していく所存です。今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2011年11月 NPO法人えんの森 理事長 二瓶 昭